

## 「浅生ハルミン ブック・パラダイス展」の実施報告について

- 1 開催期間：2021年10月23日（土）から12月26日（日）
- 2 開催場所：町田市民文学館ことばらんど2階展示室
- 3 観覧者数：5,335人／54日間（1日平均：98人）
- 4 協力：芸術新聞社、晶文社、青幻舎、淡交社、筑摩書房、  
中央公論新社、プレジデント社、本の雑誌社、  
株式会社 資生堂、株式会社 鈴木工務店

### 5 開催報告

イラストレーター・エッセイストとして活躍する浅生ハルミン（1966-）氏の「本の仕事」を中心とした初めての大規模展覧会を実施しました。

展覧会では、オリジナルの顔出しパネルを用いた撮影コーナーをはじめ、浅生ハルミン氏のイラストで作成されたアニメーション動画などの映像資料を場内3ヶ所で放映、また、浅生氏のエッセイ『私は猫ストーリーカー』にちなんで、展覧会を鑑賞しながら疑似的に「猫ストーリーカー」の気分を味わえるよう、コーナー各所に黒猫のシールを添付するなど、来場者の鑑賞体験をより印象付ける工夫を施しました。

なかでも、2010年の1年間、浅生氏が三時に何をしていたかを絵と文章で記録したエッセイ『三時のわたし』をもとに、365日の記録を絵と文章で一覧できるようにした特設コーナーは、靴を脱いで鑑賞する仕掛けと共に来場者に強い印象を残しました。

自分の「すき！」な気持ちに忠実に、本や雑誌といった〈ことば〉の世界と身近に接しながら約30年間創作活動を続けてきた浅生ハルミン氏の仕事を通じて、「すき」な気持ちを保ち続ける大切さや、日常生活を「すき」で満たすヒントを探った本展には、来場者から「久しぶりに癒された」「心が温かくなった」「明日からも頑張れそうです」という声が数多く寄せられました。

### (1) 関連事業

実施日	タイトル	参加人数	備考
11月3日	対談「こけしをめぐる冒険」	51人	
11月7日	消しゴムはんこでつくる猫の蔵書票	10人	
11月13日	秋の鶴川遊歩「可喜庵」見学会	15人	
12月1日～ 12月26日	対談「猫のいる風景／本のある情景」	420回視聴	町田市公式動画チャンネルでYouTube配信
12月5日	こけし絵付け体験 マイこけしを作ろう！	12人	

### (2) 資料

- ・描き下ろしのポスター用ラフ原稿
- ・書籍のための構想メモ
- ・猫ストーリーカーの記録手帳
- ・自筆イラストや挿絵原画
- ・新聞折り込み広告用原画

書籍や雑誌、企業広報誌、装幀資料、パンフレット、フライヤーなど印刷物をはじめ愛用品や趣味・趣向品を加えた総資料数は約350点。

### (3) パブリシティ

- ・「週刊朝日」11/12号 作家・嵐山光三郎氏による本展観覧記「ハルミンの『おかんアート』とは何か」
- ・「週刊新潮」10/28 掲示板
- ・「産経新聞」11/21 書評欄
- ・季刊「うかたま」65号（2022年1月号）
- ・「天然生活」28号（2021年11月号）
- ・集英社のサイト「OurAge」 ネット紹介記事「ゆるかわポップでクレイジー！」

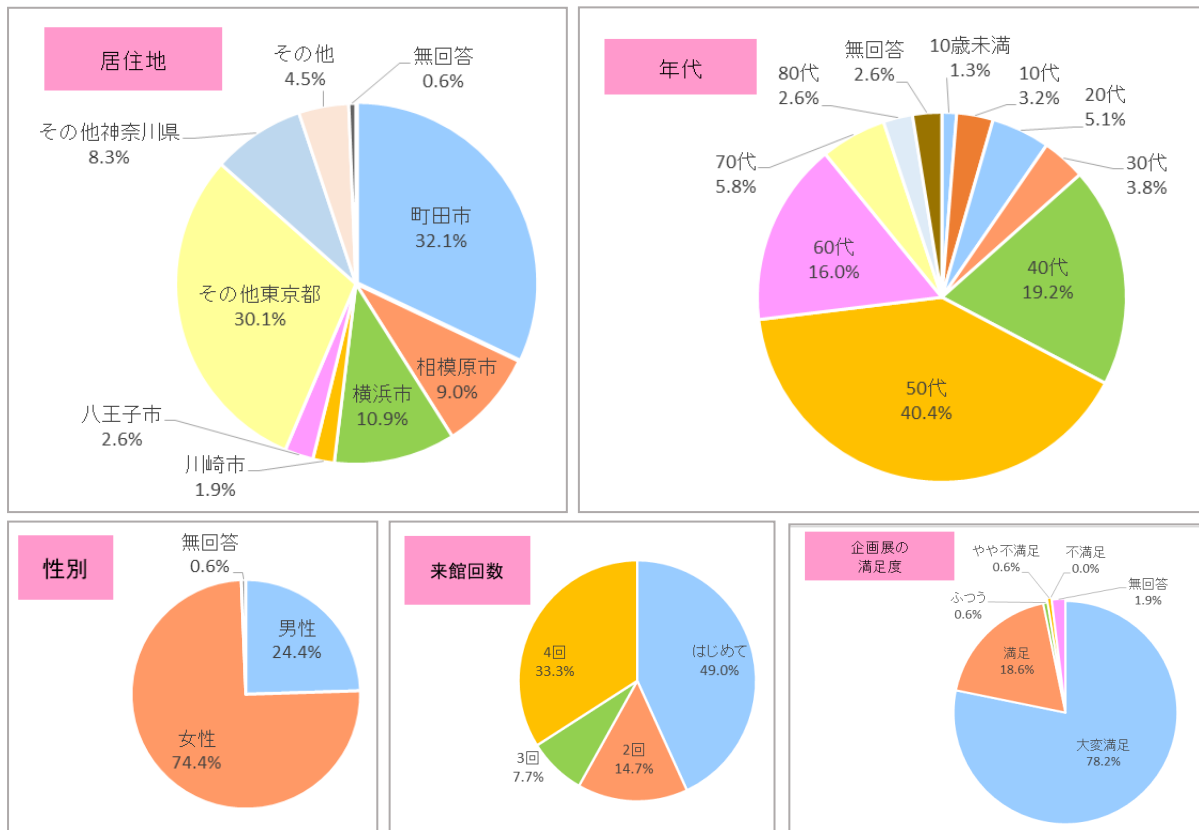
ほか

#### (4) 来館者アンケート

本展の特徴として、市内からの来場者が32%、全体として市外からの来場が多い傾向でした。年代別では50代が約4割と最も多く、次いで40代、60代と想定していた年代層よりもやや高い傾向を示した一方、10～30代が12%と若年層への訴求力にも手応えを感じました。「娘が大変気に入って」「7歳の娘が是非行きたいとのことでしたので」など、ポスター・ちらしに起用した可愛らしい図柄に子ども達が反応を示し、何度も会場に足を運んでくれた親子連れがいたことは嬉しい誤算でした。また、男女比では女性が75%と圧倒的に多く、アンケート回答者の約97%の方から満足の評価をいただきました。

来館者の感想からは、感染症による外出自粛が強いられる昨今の状況に対し、「とてもホッとする、いい時間でした」、「やさしい気持ちになれました」、「心があたたかくなりました。かわいい🍀」など、展覧会鑑賞の機会を通じて「日常の大切さを再認識した」と言った感想が集まりました。

#### アンケート集計より



展示会場風景



展示会場入口



『三時のわたし』特設コーナー